年間第7週日曜日・ A年。52皆との穏 やかな付き合い

年間第7週日曜日・A年。5 2 皆との穏やかな付き合い 一 愛徳はあらゆる機会、あら ゆる状況で実行すべき。間 違っている人を受け入れる 事、しかし直理と善に関して は揺るぎない態度をもって。 私たちを認めない人や中傷 したり傷つけたりする人、敵 対視する人…すべての人と愛 徳をもって接する事。皆のた めに祈る。一愛徳は、私た ちをキリスト者としての深い

観点で友情を育むように仕向 ける。

2024/04/09

年間第7週日曜日·A年

52 皆との穏やかな付き合い

- 一 愛徳はあらゆる機会、あらゆる状況で実行すべき。間違っている人を受け入れる事、しかし真理と善に関しては揺るぎない態度をもって。
- 私たちを認めない人や中傷したり傷つけたりする人、敵対視する人…すべての人と愛徳をもって接する事。皆のために祈る。
- 一 愛徳は、私たちをキリスト者としての深い観点で友情を育むように仕向ける。

5 2. 1 いつでも、どんな状況でも 愛を実行しなければならない

「あなたがたも聞いているとおり、 『目には目を、歯には歯を』と命じ られている。しかし、わたしは言っ ておく。悪人に手向かってはならな い。だれかがあなたの右の頬を打つ なら、左の頬をも向けなさい。あな たを訴えて下着を取ろうとする者に は、上着をも取らせなさい。だれか が、1ミリオン行くように強いるな ら、一緒に2ミリオン行きなさい。 (…)」¹。今日のミサの福音にお けるイエスのこの言葉は、人々の判 断の基準を超えて愛を実行するよう に、という招きです。私たちは人に 接するとき、お人好しであってはな らず、(私たちの権利を要求するこ とを含む)賢明(賢慮)の徳を実行 すべきです。しかし、人のために断 念し、あるいは犠牲を払うことは、 どのようなことであれ、行き過ぎだ と考えるわけにはいきません。とい

うのは、十字架上の死によって人間 的な基準では計ることができない愛 の模範を示されたキリストに似る行 いだからです。

人間にとって、善を行う時の柔和と 忍耐ほど神的でキリストに似るもの は何もありません²。 聖ヨハネ・ク リゾストモは、救いに導くすべての 徳を示唆しています。隣人のために なる徳を、主に願い求めましょう。 この世では、自分のためだけに生き ている人は誰もいません。兵士、農 夫、商人、例外なくすべての人が共 通善と隣人のために貢献していま す。これは、真に生きることである 霊的生活において、なおさら必要な ことです。自分のためにしか生きな い人、隣人を役立たずと考えて軽蔑 する人、こういう人は人間ではあり ません。人類の一人ではないのです

0

主が、私たちに繰り返された、いつ でも慈悲深くしなさいという要求 は、特に新しい掟において⁴、他の 人の助けになる具体的な方法を見つ けて主の導きに私たちが従うように 励まします。この徳を実行すること に、やり過ぎはありえないと意識し て、傍にいる人々を幸福にすること によって主に従います。愛の行いは 殆どが、微笑むこと、励ましの言 葉、親切な振舞い、といった単純な もの、小さなことから成り立ってい ます。これらは、神の目にはとても 喜ばしいことで、私たちを神の傍に 近づけるものです。今日の祈りで、 早まった判断、否定的な批判、自己 中心のために他の人々を軽視するこ と、忘れやすいこと、等、注意しな ければ簡単に愛を欠く分野があるこ とについて考えてみるべきです。キ リスト教的な行いは、目には目を、 歯には歯をではなく、時には、たと えこの世で何の人間的な利益を生じ なくても、少なくとも最後には私た

ちの心を豊かにする善を常に行うことです。

愛は私たちを、他人を理解し、ゆる し、すべての人と共に生きるのに相 応しい者にします。そのため、社会 的、政治的、宗教的に異なる考えや 行いをする人々さえも、私たちの尊 敬と愛に値します。

この種の愛と親切は、もちろん、真 理と善に無関心にさせるはずがあり ません。実際、愛はキリストに従う 人が、救いの真理をすべての人に宣 言するよう促します。しかし、私た ちは常に、退けられなければならな い間違いと、間違いを犯す人とを区 別しなければなりません。というの は、明らかに誤っていたり、不十分 な宗教的な考えを持っていたりして も、人間としての尊厳を失うことは ないからです⁵。「キリストの弟子な ら、決して人をひどく扱わないはず です。誤りは誤りとしてはっきりさ

せなければなりません。しかし、過ちを犯した人には、愛をもって接し、正してやるのです。もしそうしなかったら、その人を助けることも聖化することもできないでしょう」。。また、それは、愛の最高の表れです。

52. 2 すべての人に向かう愛、… 私たちを嫌う人も含む、その人々の ための祈り

愛の掟は、私たちに愛と優しさを示す人だけでなく、例外なくすべての人に当てはまります。あなたがたは「隣人を愛し、敵を憎め」と言われるのを聞くだろう。だがわたしは言う「敵を愛し、あなたがたを憎む者に善を行い、迫害し、中傷する者のために祈れ」。

さらに必要なこととして、私たちを 冷遇する者、偽りを広め、評判を害 する者、私たちに害を与えようとす る者に愛をもって接するべきです。 主は十字架上で模範を示しておられ ます⁷。 弟子たちは主と同じ道を歩 みました⁸。 イエスは、誰に対して も個人的には敵と考えないように教 えられました。どの時代の聖人も、 この教えを英雄的に証言しているの です。愛の様々な表明は、自分の合 法的な利益や他人の利益、教会の権 利を正しく守る時や、偽りに直面し た時に真理を宣言したり、善を防御 する時に賢明の徳を実行したりする ことと矛盾しません。しかし、キリ スト者は常に広い心を持ち、すべて の人、敵として行動する人々でさえ も尊敬しなければなりません。聖ア ウグスチヌスが指摘するように、兄 弟だからとか、兄弟にならなければ ならないからというのではなく、人 はすでに兄弟である人に対して兄弟 愛を示さなければなりませんし、兄 弟になるために、敵として行動する 人に対しても兄弟愛を示さなければ なりません°。

この行動様式は深い祈りの生活を前 提とし、異教徒や事実上キリストの 弟子として生きたいと思わない者と は明確に区別されます。あなたを愛 する者を愛したとして何の報いがあ るだろうか? 徴税人でさえそうする ではないか?また、自分の兄弟にだ け挨拶したところで、どんな優れた ことをしたことになろうか? 異教徒 でさえもそうするではないか? 私た ちが持つキリスト教信仰は、単に正 しい人間の行いだけではなく、日常 生活ではっきり表される英雄的徳を も要求します。

恩恵の助けによって、私たちは、神の子として振舞わないだけではなく、むしろ神に反対する者に対して対しる者に対してではなら、といるではなら、といるではない。しかし、すべての人は、人は皆いて神に愛されうる」 10。彼らはいて神に愛されうる、永遠の生命に到

達することができる神の子であり続 けます。すべての人が誤りを正す能 力を持っていることを信じて、愛は 私たちを、祈りに潜心し、良い模範 を示し、使徒職と兄弟的説諭を実行 するように促します。時として、辛 い侮辱、不正、中傷に苦しむなら、 聖母の助けを願わなければなりませ ん。度々、十字架の下で、息子に行 われた恥ずべき出来事に耐えた聖母 を黙想しています。また、多くの侮 辱は私たちから出たことを忘れない ようにしましょう。私たちは、むし ろ、不正が主を攻撃、侮辱し、他の 人々に害を与えるのを悲しむべきで す。つまり私たちのすべきことは、 主に償いを捧げ、できる限り埋め合 わせをすることでしょう。

5 2. 3 キリスト者は深いキリスト 教的な意味を友情に与えます

キリスト者は広い心を持たなければ なりません。しかし、愛には順序が ありますから、キリスト者はこの徳 をまず神が傍に置いてくださった者 に行わなければなりません。とは言 え、他の人々に対する尊敬と好意は 決して排他的であったり、友人の小 さなサークルだけに限ったりする ではありません。主は限られた範囲 だけの使徒職をお望みではありませ ん。

神の恩恵の助けによって、毎日の生活を実り多いものにしようと魅力のは、使徒職の神との一致は、使徒職のを動力を認めるというとを認めるにもない。 な人間的重要性を認めません。 な人間がなければなりません。 なりません。 を導が仲間と付き合うしい礼儀 なりませんでありたるでありたるともがのになると自分の計画にでありたない。 惜しみなくもの計画にでありになる 傾向に打ち勝つことを意味する です。

個人的な祈りの中で、主に次のよう に願います。私たちの心を広くして

くださるように、人々の大きな輪に 誠実な友情を差し出すために助けて くださるように、度々、自分自身の エゴを抑えたり個人的な考えや好み を脇に押しやったりしなければなら ないとしても、相手の反応を気にせ ず、一人ひとりに使徒職を行うよう 動かしてくださるように。肯定的な 努力をするのは誠実な友情の不可欠 な部分で、私たちが常にイエス・キ リストと付き合うことによって維持 されるでしょう。「本当の友情があ れば、たとえ分かち合ったり、受け 入れたりはできなくとも、友の信念 を理解するよう真心から努力するは ずである | ¹¹。たとえ、私たちが 持っているキリスト教的確信と両立 しなくても。

主は、恩恵に導かれ神に立ち返りさ えすれば、必ず私たちの罪をゆるさ れます。主は私たちの惨めさと誤り に際限なく忍耐されます。だからこ そ、環境として知人や友人が神に近

づくのが困難な状況になっていると きは、今度は私たちが忍耐するよう 神は私たちに要求するのです。イエ スご自身はこの教義を私たちの御父 においてはっきりと教えられまし た。他の人々が形成に欠けたり、教 理を知らなかったり、性格上の欠点 を表したり、あるいはこのようなこと に無関心に思われる時、知らぬ顔を するわけにはいきません。反対に、 これを緊急な呼びかけとして、霊的 助けをさらに必要とするしるし、信 号として認め、私たちが、他の人た ちを放っておくのではなく、その人 たちへの関心を強めるようにとの招 きとするべきです。

最も困っている親戚や友人、知人に 近づく決心をしましょう。そして、 聖母に、この人々に近づくために必 要な恩恵をお願いしましょう。

¹ マタイ5:38-48

- ² St Gregory Nazianzen, Prayer, 1 7:9 参照
- ³ 聖ヨハネ・クリゾストモ, Homilies on St Matthew's Gospel, 77:6
- 4 ヨハネ13:34-35
- ⁵ 第 2 バチカン公会議,現代世界憲章, 2 8
- _{_} 聖ホセマリア・エスクリバー, 『神の朋友』, 9
- ⁷ アルカンタラの聖ペトロ、「祈り と黙想について」23,34参照
- ⁸ 使徒言行録,7:60参照
- ⁹ 聖アウグスチヌス, Commentary on the First Epistle of St John, 4, 10, 7
- ¹⁰聖アウグスチヌス, On Christian Doctrine, 1 : 2 7

¹¹ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『拓』, 746

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-VII-nichi-A/ (2025/12/13)